

研究課題名	若年性特発性関節炎の難治性病態解明および診断基準・重症度分類の標準化とエビデンスに基づいた診療ガイドラインの策定に関する研究
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科小児科学 教授 小林 正夫
研究期間	平成29年5月24日（倫理委員会承認後） ～ 平成31年3月31日
対象者	当院小児科で治療中の若年性特発性関節炎の患児で、研究参加時点で20歳未満の患児、性別は問わない
意義・目的	生物学的製剤の登場などもあり、若年性特発性関節炎(JIA)に対する治療は格段に進歩していますが、全国規模での診療実態や長期的な予後については不明な点が多いのが現実です。本研究は、全国でJIAの患者さんを調査して、本邦におけるJIA診療の現状や問題点、長期的な予後、またマクロファージ活性化症候群やぶどう膜炎などの難治の合併症を評価し、今後のJIA診療(診断・治療)の改善を目的としています。
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は発症年齢、性別、病型、関節炎の状態、血液検査・尿検査・レントゲンの結果などです。</p> <p>（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	<p>【統括研究責任者】</p> <p>大阪医科大学小児科学教室・助教・岡本 奈美（厚生労働科学研究分担研究員）</p> <p>【研究協力者】</p> <p>あいち小児保健医療総合センター 感染症/予防診療科・医長・岩田 直美 宮城県立こども病院 総合診療科/リウマチ科・部長/科長・梅林 宏明 KKR札幌医療センター 小児/アレルギーセンター・医長・大倉 有加 琉球大学大学院医学研究科育成医学・助教・金城 紀子 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児科学・診療助教・久保田 知洋 金沢大学医歯薬保健研究域医学系小児科・助教・清水正樹 大阪医科大学小児科学教室・臨床研修責任指導医・謝花 幸祐 横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学・助教・原 良紀 兵庫県立こども病院 リウマチ科・部長・中岸 保夫 横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学・助教・西村 謙一 東京医科大学医学総合研究所難病分子制御学部門・兼任教授・西本 憲弘 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座（旧：薬剤監視学講座）・准教授・松井 利浩 岡山大学病院 小児科・助教・八代 将登 京都大学大学院医学研究科発生成育小児医療学講座発達小児科学・講師・八角 高裕 広島大学大学院医歯薬保健学研究科・小児科学・クリニカルスタッフ・安村 純子</p>

埼玉医科大学総合医療センター・小児科・山崎 和子
山口大学大学院医学系研究科小児科学分野・助教・脇口 宏之

JIAの特徴評価（発症年齢、性別、病型、関節炎の状態など）は大阪医科大学に情報を集め、大阪医科大学（研究責任者 岡本奈美）、が解析します。マクロファージ活性化症候群の症例は金沢大学に情報を集め、金沢大学（研究担当者 清水 正樹）が、解析します。ぶどう膜炎の症例は、岡山大学と広島大学に情報を集め、岡山大学（研究担当者 八代将登）、広島大学（研究担当者 安村純子）が解析します。

試料・情報の管理責任者

大阪医科大学小児科学教室 助教 岡本 奈美

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5473

広島大学病院小児科 クリニカルスタッフ 安村 純子

研究機関：広島大学